

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298700012		
法人名	社会福祉法人希望会		
事業所名	グループホーム希望の里		
所在地	千葉県匝瑳市栢田8645		
自己評価作成日	平成27年3月4日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他法人のデイサービス、障害者施設などの行事に参加したり、当希望の里の職員のギター演奏による歌の時間を設けたり、プロの歌手やボランティア団体を招いての施設内行事、近隣の2つの小学校との交流会、季節の外出行事、法人内の他施設の入居者とのカラオケ大会など、数多くの行事を実施しています。法人内の6事業所統一の内部研修資料を毎月作成、全職員に配布し知識の向上に努めています。匝瑳市の運営する訪問看護ステーションと24時間365日連絡対応体制を整えており、健康管理、医療的な支援につなげています。2ヶ月に1回の運営推進会議では、市職員、民生委員、御家族からの意見を定期的に得てサービスの向上に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム希望の里」は、畑に囲まれた静かな環境にある施設である。同法人が経営する併設のケアハウスとデイサービスも近隣にあり、日頃の行き来や合同行事等で交流が行われており、入居者の楽しみとなっている。地域に根差した施設運営を目指しており、日頃の挨拶・声掛けや地域行事への参加を通じて、地域との交流を図ると共に、併設のケアハウスにて地域住民を対象とした市の介護教室を開催しており、様々な形で地域との交流機会を確保している。日常的な外出の他に、外出行事を定期的実施しており、戸外での楽しみを支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成27年3月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした明るい長寿社会作り、という運営理念を玄関に掲示しています。地域の行事に参加しています。	「利用者のその人らしさを大切に、いきいきとした笑顔あふれる生活を提供します」と言う、理念を掲げており、事業所玄関に掲示している。また、理念の研修の他、「福祉サービスとは」「認知症の理解」「他社の企業理念紹介」等の資料を職員に配布しており、目指すべき施設運営像を職員へ周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にある、他法人の障害者施設やデイサービス施設のイベントに伺って、交流を図っています。毎年、地域の小学校の2校と交流会をしています。市役所主催の介護予防教室に参加しています。	日頃から地域住民とは挨拶・声掛けを交わす関係を築いていると共に、地域行事への参加や併設施設との合同行事の開催等を通じて、地域との交流を図っている。また、地域の小学生の職場体験の受け入れ等を行っており、世代間交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民から介護相談があると、責任者が相談対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、民生委員、御家族、管理者が2ヶ月に1回集まり、運営推進会議を実施しています。活動報告、活動予定、介護保険に関する事を中心に話し合いをしています。	運営推進会議は、年6回開催しており、民生委員・市職員等が出席している。会議では、施設活動報告や意見・情報交換を行い、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催時や、訪問調査の時などに情報交換をしています。定期的に広報誌やパンフレットを配布して、施設のPRをしています。	日頃から市に対して業務における報告や相談を行っており、連携を図っている。また、施設ケアマネ連絡会・認知症他職種協働研修会等に参加しており、同業者や市との意見・情報交換を行っている。その他にも法人にて市の「介護教室」を開催する等、市と合同イベントも行われている。	

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束における資料を配布しています。外出や外泊や家族との面会を自由に行えるようにしています。原則、日中は、玄関の施錠はしていません。夜間は、防犯のために玄関のカギはかけています。	身体拘束排除及び高齢者虐待に関わる内部研修の実施・資料配布を行い、職員への意義の周知を図っている。また、施設方針の説明や医師との情報交換を通じて、入居者の自由な生活に配慮した適切な支援の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、高齢者虐待防止法における資料を配布しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、権利擁護における資料を配布しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書や重要事項説明書について、利用者およびご家族に責任者から丁寧に説明を行っています。疑問点があるかこちらからお伺いして、理解して頂いてから入居して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市役所職員の案により玄関に目安箱を設置しています。面会時や、電話連絡時などにご意見や要望を確認しています。	家族の訪問時・電話連絡時等を活用しながら、家族の意見・要望を確認している。また、施設新聞を定期的に郵送し、家族の理解促進に努めている。挙げた意見・要望においては、会議・申し送り等にて、周知・検討の上、適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設責任者は、職員の意見を否定しないように努めています。提案内容は、検討して、可能な時は運営に反映しています。	定期的に会議を開催していると共に、会議開催時には、議題を事前に募集する等、効率的な意見・情報交換に努めている。また、定期的に内部研修を実施する等、適切な人材の育成にも努めている。	

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算交付金制度について、積極的に申請、就業環境の整備に努めています。法人役員19名には、他法人の理事が多数いるので、事業内容について意見交換をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士や介護支援専門員の資格取得希望者が、受験対策研修に行く場合は、その会場までの往復の交通費を法人が支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画作成担当者は、市役所主催の施設ケアマネ研修会に毎回、参加しています。管理者は他法人の特養やグループホームなどの責任者と勉強会を実施しています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、利用者本人やご家族と面接を行っています。居宅サービスを利用している場合、担当のケアマネージャーと連携をとっています。退院後に入居する場合、病院の医療相談室の職員と連携をとっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、利用者本人やご家族と事前にADLや病歴や趣味などをお伺いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後に必要な介護保険外の福祉用具レンタルについて、入居前にも説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人がお話を楽しめるように配慮して、声掛けをしています。会話をすることで、うちとける事ができるよう努めています。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には、お手紙や面会時にて、身体状況や受診状況、活動内容を説明しています。主治医と話し合った結果、診察に御家族の同席が必要と判断した場合、次回の診察時に同席をして頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの、かかりつけ医との関係を継続できるように、入居後も、かかりつけ医に毎回、診察して頂けるように、送迎および付き添いサービスを行い、身体状況等の説明を行っています。	友人・知人・家族の来訪を随時受け付けていると共に、希望に応じて、手紙や電話のやり取りも可能となっており、馴染みの関係継続を支援している。併設のケアハウスとの行事や日頃の行き来を通じて、新たな馴染みの関係構築を支援している。他にも、ドライブ・地域行事への参加を実施しており、馴染みの場での楽しみも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ひとりひとり性格が違うので、楽しく過ごせるように食事の席替えには配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院のために、2年前に退居された利用者への手紙や通知がいまだに数多く届きますが、毎回、事業所から御家族へお送りしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、生活歴、趣味、利用者と家族の意向を把握しています。歌の好きな利用者が多いので、空いた時間を利用してギター演奏で唱歌などを皆で歌い喜んで頂いています。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、医療機関や他事業所からも情報提供を受けており、詳細な情報の把握に努めている。新たな情報は、会議・連絡ノート・申し送りにて、職員へ周知しており、情報の共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネージャーやソーシャルワーカーから、事前に情報を得て、ひととなり把握しています。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態の観察結果から毎月、課題が何か検討し、課題解決に向けて検討しています。かかりつけ医や訪問看護ステーションからの助言や指示に沿った対応に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族から面会時や電話時、病院での診察に同席して頂いた時などにご意見、要望を頂いています。毎月、事業所内の職員会議を実施しています。毎週、訪問看護ステーションとの話し合いを実施しています。	本人・家族の意向を基に、職員間で検討の上、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、現状や家族の要望・変化が生じた時には、記録を基に介護計画の見直しを行っている。必要に応じて、訪問看護師や医師の意見を確認し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、夜間日誌は、利用者ひとりひとりのその日のケア状況、食事摂取量、水分摂取量、トイレの利用状況が一目でわかるような様式にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の施設にて、1年に5回、市役所主催の介護予防教室が行われるので、毎回、参加して、健康体操、音楽体操などを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会には制限をかけないので、御家族や友人、知人が自由に面会ができます。毎回、別の民生委員を招くことで、入居者が旧友と再会できる可能性を広げました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医との関係を継続できるよう、入居後も、主治医に受診し、経過を把握し記録に残しています。面会時や手紙にて、家族に状況報告しています。訪問看護ステーションと密に連携を図っています。	希望のかかりつけ医への受診を支援しており、必要に応じて職員が通院の付き添い・同行を行っている。また、訪問看護を実施し、健康管理や医療面での相談・助言・対応で連携を図っており、入居者・家族・職員の安心に繋がっている。受診状況や健康面においては、定期及び随時家族に報告し、理解を得ている。	

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問時以外にも、随時、訪問看護ステーションに連絡し、助言を頂いています。指示に沿った対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、御家族、病院の医療相談室、担当の医師と連携を図っています。また、入院中も、定期的に面会にいき、様子観察をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	将来、利用者が重度化及び終末期を迎えた時に備えて、指針を、契約時に御家族に説明しています。同意書を交わしています。訪問看護ステーションや、かかりつけ医と連携しています。契約時には家族にも説明しています。	終末期・重度化における施設方針を説明し、同意を得ている。必要に応じて、家族・医師・看護師等と相談をしながら、意向に沿った支援が行えるよう関係機関と連携を図っている。	契約時に終末期における意向の確認書を交わしているが、定期及び随時、状況を判断しながら、再度確認する事で、より意向に沿った終末期支援の実施に取り組んで頂く事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、地元の消防署から救命士を2名招いて、実践的な救命講習を開催しています。毎回、わかりやすい資料も持参して頂いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、自動火災通報装置、火災報知機、非常灯、消火器を設置しています。年3回の避難訓練を行っています。1回は消防署の立ち会いも依頼し、講評を受けています。	スプリンクラー・自動通報機・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、年3回の消防訓練を実施している。訓練では、消防署立会い訓練・通報訓練・夜間想定訓練等を行い、状況に応じた避難方法の確認を行っている。また、市の防災対策組織を通じて、避難場所の確認を行っており、地域を交えた防災意識の向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人ファイルは、所定の場所に保管しています。古い個人ファイルや業務日誌、夜間日誌も大切に保管しています。個人情報保護の資料も毎年、配布しています。	個人情報保護・プライバシー保護・接遇等の研修を実施しており、職員へ意義の周知を行っている。「その人らしい生活」を理念に掲げており、会議で検討をしながら個人の尊重を意識した支援の実現に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の意思を尊重し、受診の希望や、食事、睡眠、入浴の意見を伺っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お昼寝やおやつ、入浴、食事などひとりひとりにあわせた生活の支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、歯みがき、洗顔など本人のペースを尊重しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人専属の管理栄養士が、食事から季節を感じられるよう検討して、毎日の献立を作成しています。毎月のお楽しみメニューを利用者と相談しながら考えて決定し、毎月行っています。	入居者の能力や希望に応じて、食事の準備から片付けを共同で行っている。献立は、法人の栄養士が作成しており、食材の配達を業者に委託している。また、定期的に外食会や行事食を企画・実施しており、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地元産の食材を活用しています。日々の食量、水分量をひとりひとり把握できるよう記録しています。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施や、ポリドントでの入れ歯洗浄を実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	希望者に、法人所有のポータブルトイレを無償貸与しています。利用者毎に排泄パターンが違うので、排泄チェックシートを活用することで、トイレ誘導や声掛けを行い必要な介助を行っています。	排泄チェックリストを作成しており、個々のパターンを把握しながら、状況に応じた声掛けやトイレ誘導にて排泄の自立に向けた支援を行っている。必要に応じて、医師や看護師に相談しながら適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事を記録して、一人一人把握しています。便秘について、かかりつけ医や訪問看護ステーションと情報交換しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	利用者本人のペースでゆっくりと入浴できるように支援しています。失禁等があれば、その都度対応して入浴して頂いています。	入居者の希望や体調に応じて、柔軟に対応しながら適切な入浴機会を確保している。また、必要に応じて、清拭・シャワー浴・部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。入居者の身体状況に応じて、複数介助を行っており、適切な入浴支援体制を整備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況にあわせた休息ができるように、ひとりひとり様子をみながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬、服薬確認、お薬の残量のチェック、新しく内服するお薬のことなど、適切に把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの希望や力に応じた役割をみつけられるよう支援しています。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、季節のお花の観賞、近隣の外出、選挙、他法人のイベント参加をしています。	日頃から散歩・買い物・ドライブ等を実施しており、戸外に出る機会を確保している。また、施設敷地内には、ウッドデッキや菜園があり、気軽に外の空気を楽しめる環境整備がなされている。定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の了解のある方は、家族と取り決めた範囲内で、お金を自由に使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じてご家族に電話をしたり、取りついたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい音楽、照明の明るさ、室温の管理などの工夫に努めています。居心地のよい生活ができるように配慮しています。季節の花を飾ったり、行事の飾りつけをするなど季節を感じられるようにしています。	広く確保された共有スペースには、椅子・テーブル・ソファ等を設置しており、自由にくつろげる環境作りがなされている。また、カラオケ機・マッサージ器・リハビリ機器があり、入居者の楽しみや身体機能の維持・向上の為の設備を導入している。	共有スペースに置かれた不要物品を収納し、入居者の安全な導線確保を行って頂く事を望みます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の気配り、ソファの配置等考慮しています。居室の出入りもお互いの同意のもと、自由にして頂いています。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものをご自宅から持参して頂いています。見慣れたものが居室にあると落ち着きますので、そのように支援しています。居心地良くすごせるよう随時、清掃や整理整頓を行っています。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、テレビ・ポータブルトイレの設置や布団を敷く事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りを行っている。その他にも収納スペース・鍵・呼び出しボタンが設置されており、プライバシーの確保及び安全面に配慮した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口には、表札があります。表札の横に、外出行事などで撮影した思い出の写真を貼付しています。トイレは、認識しやすいように工夫しています。		